

## 平成24年4月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,906	8,262	4,138	4,124	△ 6	△ 45
2 千 石	3,296	6,542	3,283	3,259	△ 34	△ 39
3 内 山	4,823	7,037	3,742	3,295	40	36
4 大 和	3,182	6,632	3,332	3,300	△ 31	△ 80
5 上 野	7,229	15,445	7,506	7,939	△ 53	△ 137
6 高 見	6,277	12,356	5,941	6,415	△ 11	△ 20
7 春 岡	6,185	10,080	5,374	4,706	△ 7	△ 47
8 田 代	11,094	21,211	10,191	11,020	37	68
9 東 山	9,498	18,338	8,977	9,361	△ 5	△ 81
10 見 付	4,259	8,092	4,016	4,076	△ 64	△ 65
11 星ヶ丘	3,388	6,610	2,958	3,652	△ 35	△ 114
12 自由ヶ丘	3,227	6,946	3,139	3,807	△ 7	△ 25
13 富士見台	6,381	15,709	7,234	8,475	1	△ 39
14 宮 根	3,708	8,510	4,031	4,479	7	△ 49
15 千代田橋	3,635	8,767	4,088	4,679	△ 14	△ 48
千 種 区 計	81,088	160,537	77,950	82,587	△ 182	△ 685
H23.4.1	80,617	160,234	77,859	82,375	142	25
対 前 年 比	471	303	91	212	△ 324	△ 710
名 古 屋 市	1,030,155	2,261,377	1,113,109	1,148,268	1,309	△ 3,656
愛 知 県 ( H24.3.1 )	2,963,511	7,420,946	3,706,003	3,714,943	615	△ 1,224

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	128	113	15	2,303	3,003	△ 700

【参考】

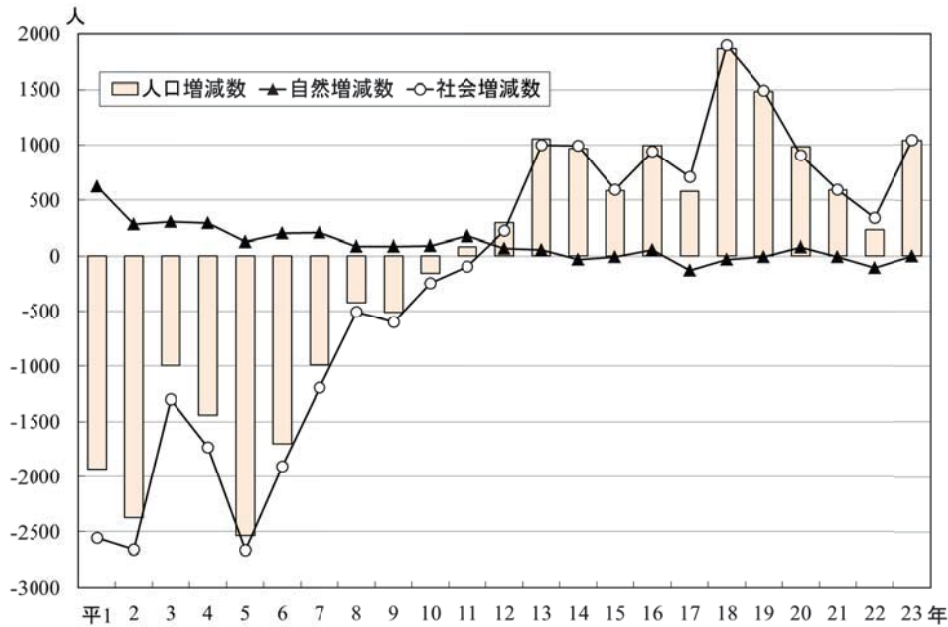
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

(注意) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動数を加減しています。

## 平成23年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向を考える上で重要な人口増減の内訳を見ていきたいと思います。

平成23年の千種区の人口数は、1,037人増の161,052人となっており、名古屋市16区のうち6番目の



人口規模です。図1の人口増減数を見てみると、千種区の人口は平成11年以降増加に転じています。社会増減数は人口増減数の変化にほぼ対応して変化しています。一方、自然増減数は年々ゆるやかに減少し、平成12年以降は0付近でほぼ横ばいの状態が続いています。従って、千種区の人口増減数は社会増減数の変化に大きく依存していると考えられます。

それでは、社会増減数の転入・転出について見ていきます。

図1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移。(各年前年10月～当年9月)

平成23年の千種区の社会増減数は、緑区について2番目に多く、1,041人で12年連続の転入超過になりました。図2を見てみると、前年比で転入・転出ともに減少しましたが、転出者が大きく減少(対前年-858人)したため、社会増減数は増加(対前年702人)しました。

また、人口移動数(転入数+転出数)は26,045人で、16区中で最大となっています。

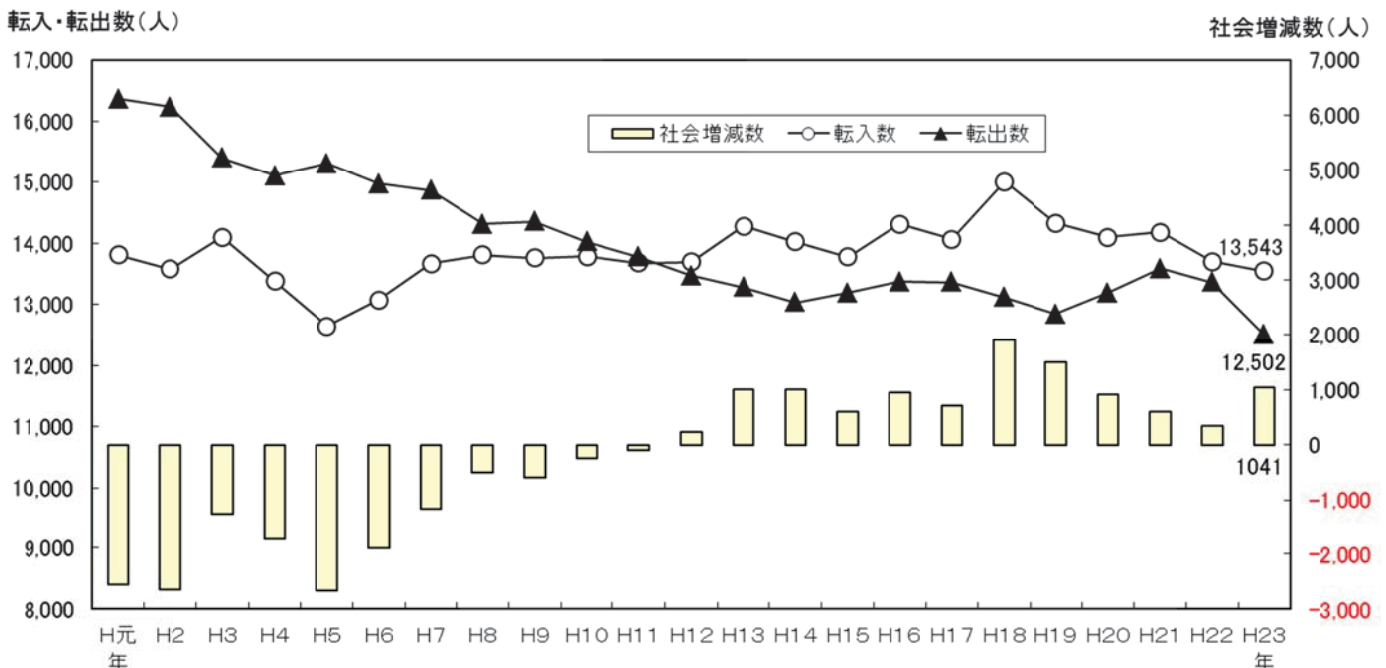


図2: 千種区の平成14年以降の社会増減数、市内区間移動および市外移動の推移。(各年前年10月～当年9月)